

## 平成30年度 千葉県高等学校新人サッカー大会 総評

今年度の千葉県高等学校新人サッカー大会はシード校49校に各ブロックの予選を勝ち抜いた48校を加えた97校のトーナメント方式で行われた。新チームにとって初めてのトーナメント方式による大会である。高校サッカー選手権の敗退時期の違いやリーグ戦の日程等により新チームへ移行してからの活動期間は各チームによって異なるため、拮抗した試合展開やシード校が早々に敗れることが多い大会である。今大会も2回戦から登場したシード校6校が初戦敗退という結果となった。

どのゲームも攻撃では素早く前線へボールを供給するチームやビルドアップから相手ゴールを目指すチームなど、各チームにおける持ち味を出そうとする姿勢が窺えた。一方、守備では個人戦術やチームとしての守備戦術が確立されておらず失点を重ねてしまうなど課題がみられた。

その中でもベスト16に進出したチームは、攻撃だけではなく守備においても戦術が確立されており、組織的にボールを奪おうとするねらいや、ゴール前ではGKを中心とした粘り強い守備を80分間継続していた。特にブロック決勝となる4回戦では、しっかりとしたチームコンセプトをベースにしながらも相手に合わせた柔軟な戦いができるチーム同士の対戦が多く、攻守においてハイレベルなゲームが展開されていた。八千代、習志野、翔凜、日体大柏、東京学館、敬愛学園、中央学院、千葉明德がベスト8に進出したが1点差のゲームやPK方式で勝敗が決したゲームも多く、5月に行われる関東大会千葉県予選での戦いが楽しみである。4月からは各チームに新入生が加わる中でいかにチームコンセプトを浸透させ、チームを成熟させていくのか、それぞれのチームによる強化・育成に期待したい。

例年、降雪による影響で会場変更等を余儀なくされる場合の多い新人大会ではあるが、今年度は大きな変更もなく無事終了することができた。会場役員・審判の方々を始め、大会運営にご協力頂いた全ての方々に感謝の意を表すとともに、千葉県高校サッカーの発展を祈念し総評とさせていただきます。

千葉県立薬園台高等学校  
平塚 智